



平成 17年 3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17年 1月 28日

上 場 会 社 名 ユニ・チャーム株式会社

(コード番号 : 8113 東証第1部)

(URL http://www.unicharm.co.jp/)

代 表 者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

問合せ先責任者 取締役 常務執行役員 丸山 茂樹

TEL (03) 3447 - 5111

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 (詳細は添付資料に記載)
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成17年3月期第3四半期財務・業績の概況 (平成16年4月1日 ~ 平成16年12月31日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期(当期) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	186,019	2.3	22,164	10.3	22,512	11.3	12,913	1.9
16年3月期第3四半期	181,827	-	24,717	-	25,385	-	13,164	-
(参考) 16年3月期	240,109		30,726		31,120		16,239	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17年3月期第3四半期	194	26	-	-
16年3月期第3四半期	196	21	-	-
(参考) 16年3月期	240	26	-	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
17年3月期第3四半期	211,779	134,614	63.6	2,025	10
16年3月期第3四半期	201,437	119,818	59.5	1,802	45
(参考) 16年3月期	209,002	123,708	59.2	1,858	63

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	11,723	10,144	1,128	47,207
16年3月期第3四半期	24,845	23,669	7,229	35,406
(参考) 16年3月期	36,915	25,836	7,933	44,434

[参考]

平成17年3月期の連結業績予想 (平成16年4月1日 ~ 平成17年3月31日)

	予 想 売 上 高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	245,000	27,100	15,300

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 227円 81銭

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

[経営成績（連結）及び財政状態の概況]

1. 経営成績

当第3四半期（平成16年4月1日から平成16年12月31日まで）の経営成績の進捗状況は、国内事業では、それぞれの主力事業分野で積極的な高付加価値製品の市場投入や、販売・マーケティング活動を展開してまいりました。一方、海外事業においては、成長するアジア市場を中心に着実なブランド浸透策の展開によって順調に業容を拡大してまいりました。この結果、売上高は前年同期より41億円増えて1,860億円（前年同期比2.3%増）となっております。利益は、主に国内ベビーケア事業での消費税総額表示導入や猛暑による需要の低迷で競争が一段と激化した影響により、営業利益は前年同期より25億円減少して221億円（前年同期比10.3%減）、営業利益率11.9%、経常利益は28億円減少して225億円（前年同期比11.3%減）、経常利益率12.1%、当第3四半期純利益は2億円減少して129億円（前年同期比1.9%減）となりました。

セグメント別の概況

パーソナルケア事業部門

● ベビーケア事業

国内の市場価格は下げ止まりの兆しが見えてきたとはいえ、依然として厳しい状況にあります。

当社は、このような環境下においても、リーディングカンパニーとして消費者の皆様により高い付加価値を提供していくために、パンツタイプ紙オムツの市場浸透策を中心に、絶え間ない製品のリニューアルと積極的なマーケティング活動を推進し、市場の活性化と収益の拡大に努めてまいりました。

大好評の『ムーニーマン』はデザイン性を高めると共に、新たに高月齢のお子様の使用機会に対応した『ムーニーマン ビッグより大きいサイズ』を発売することによって新たな市場を創造し、売上の拡大に貢献いたしました。また、簡単にオムツ替えができる二つ折りタイプの『マミーポコ』を発売し、製品の使い易さを高めてまいりました。

一方、海外では、東アジア地域参入各国（台湾・中国・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン）において、積極的な販売・マーケティング活動を展開することによって市場拡大と、テープタイプの『Mamy Poko』とパンツタイプの『Mamy Poko Pants』のブランド浸透を図り、売上と利益を順調に拡大いたしました。また、ヨーロッパにおいては、パンツタイプ紙オムツの市場への浸透を図ってまいりました。

● フェミニンケア事業

国内では、生理対象人口の減少により市場は低調に推移しております。このような環境下において、生理用品カテゴリーで唯一の総合メーカーとして「女性の快適を科学して自由を創造する」という事業理念のもと、『ソフィ』ブランドから安心と快適を実現する製品の開発・改良に注力し、高付加価値製品を提供することで市場の活性化に注力してまいりました。

生理用ナプキンでは、発売以来、成長を続ける夜用市場の拡大に貢献してきた『ソフィ ワイドガード』から、初めての昼用ワイドタイプ『ソフィ ワイドガード250』を新発

売いたしました。昼のモレトラブルを低減し不安を払拭する同製品は、昼用ナプキン市場の拡大に貢献いたしました。また、夜の不安を低減する代表的なナプキンとして支持されている『ソフィ ボディフィット熟睡ガード』、『ソフィ ボディフィット超熟睡ガード』は、フィット性を大幅に向上させてモレ率を約 25%低減した結果、お客様の満足度を更に高めることができました。

海外では、東アジアでの展開を加速するために、積極的にマーケティング活動を行い、市場拡大と『Sofy』ブランドの市場浸透を図りました。また、昨年 11 月には中国で若年層をターゲットにした『Charm』ブランドを新たに投入いたしました。海外初の 2 ブランド戦略を推進することによって、中国市場において更なる業容の拡大を図ってまいります。

● ヘルスケア事業

国内ヘルスケア事業は、成長市場における競争が激しさを増す中、市場成長率を大きく上回る売上の高成長を実現し、店頭市場シェアを順調に拡大いたしました。我が国社会の高齢化が進む中で、「生命の喜びを追求する」を事業理念に心と身体の寝たきりゼロを目指して、『ライフリー』ブランドの開発・改良に注力してまいりました。

テープ止めタイプの紙オムツでは、日本の介護品質を革新し新たな市場を創造する、新発想のテープ止めタイプの大人用紙オムツ『ライフリー どんな動きにも安心伸縮テープ止め』を新発売いたしました。

また、成長著しい軽失禁製品では、『チャームナップ さわやかライナー』シリーズ『チャームナップ さわやか超吸収』シリーズを改良新発売するとともに、ヘビーユース化を促進する大パックを新たに提案することで、潜在市場の掘り起こしと使用量の拡大を図ってまいりました。さらに好評の『超立体マスク』シリーズでは、『かぜ・インフルエンザ用』と『花粉用』から、新たにお子様や小顔の方までをカバーする『やや小さめサイズ』を新発売し、マスク市場の拡大に貢献してまいりました。

海外では、台湾、タイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速するとともに、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上を拡大しております。

● クリーン&フレッシュ事業

クリーン&フレッシュ事業では、当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供しています。

新しいお掃除習慣を提案し好評をいただいている『ウェーブ』シリーズから、手早く楽にお掃除をしたい主婦の方々の“水拭きの簡単・清潔ニーズ”にお応えした、日本で初めての“スプレー式フロアモップ”『ウェーブ ピュピュッとモップ』を発売いたしました。さらに新しいお掃除習慣を提案することにより、今まで以上にお客様の満足度を高めると共に、新たなお掃除用品市場を創造し、売上也好調に推移いたしました。

ペットケア事業部門

ペットケア市場は、少子化・高齢化に伴うペット飼育世帯の増加などにより、中長期にわたり確実に成長が期待される有望市場であります。連結子会社ユニ・チャームペットケア株式会社は、このような市場環境下において、「健康と清潔でペットの暮らし快適に」を

事業理念に、ペットが長生きし清潔な環境で暮らしていくための、フードとトイレタリーの二つの事業部門に特化して、事業を展開しております。フード部門では、高齢犬用『愛犬元気 11歳以上用』、おいしさを追求した猫用『ねこ元気 銀のスプーン』をはじめとして、差別化されたカテゴリー製品を中心に製品力の強化・販売促進を図ってまいりました。また、トイレタリー部門では、猫の排泄処理用品『1週間消臭・抗菌デオトイレ』や、害虫駆除剤『ノミ・ダニ ケアスポット』等、増加するペットの室内飼育におけるニーズを捉えた製品の品揃えの充実を図ってまいりました結果、売上・利益とも順調に伸ばいたしました。

その他部門

その他部門では、スーパーマーケットなどを顧客とする食品包材事業を中心に、堅調に推移いたしました。

2. 財政状態

総資産は前連結会計年度末に比べ 27 億円増加して、2,117 億円となりました。また、株主資本は、109 億円増加して 1,346 億円となりました。この結果、株主資本比率は、前連結会計年度末 59.2%から 63.6%となりました。

増減の主なものは、流動資産では現金及び預金が 3 億円減少し、受取手形及び売掛金が 8 億円増加、有価証券が 13 億円増加しております。有形固定資産では、機械装置及び運搬具が 60 億円増加し、建設仮勘定が 45 億円減少しております。投資その他の資産では、投資有価証券が 12 億円増加しております。

(連結キャッシュ・フロー)

当第 3 四半期の営業活動で得られたキャッシュ・フローは、117 億円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益 229 億円、減価償却費 90 億円、法人税等の支払 141 億円等によるものであります。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、101 億円となりましたが、これは設備投資 103 億円が主たる要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、11 億円となりましたが、これは連結子会社ユニ・チャームペットケア株式会社が新たに 12 億円の株式を発行したこと等によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第 3 四半期末残高は、前連結会計年度末より 27 億円増加して 472 億円となりました。

3. 通期の見通し

当第 3 四半期までの経営成績の進捗と現況の国内ベビーケア事業、及びフェミニンケア事業の市場競争の激化を鑑みた結果、平成 17 年 3 月期中間決算発表時(平成 16 年 10 月 29 日公表)の予想に対して、売上高は 60 億円、また、利益面におきましても、経常利益は 41 億円、当期純利益は 13 億円、それぞれ修正させていただきます。

(添付資料)

(要約) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

区分	当第3四半期末 (平成16年12月31日現在)		前第3四半期末 (平成15年12月31日現在)		前連結会計年度末 (平成16年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	94,699	44.7	88,284	43.8	94,575	45.3
固定資産	117,079	55.3	113,153	56.2	114,426	54.7
1.有形固定資産	77,925	36.8	76,535	38.0	77,306	37.0
2.無形固定資産	2,552	1.2	2,800	1.4	2,903	1.4
3.投資その他の資産	36,601	17.3	33,817	16.8	34,216	16.3
資産合計	211,779	100.0	201,437	100.0	209,002	100.0
(負債の部)						
流動負債	59,543	28.1	64,002	31.8	66,874	32.0
固定負債	8,656	4.1	10,863	5.4	11,505	5.5
負債合計	68,200	32.2	74,865	37.2	78,379	37.5
少数株主持分	8,964	4.2	6,753	3.3	6,913	3.3
(資本の部)						
資本合計	134,614	63.6	119,818	59.5	123,708	59.2
負債、少数株主持分及び資本合計	211,779	100.0	201,437	100.0	209,002	100.0

(要約) 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

区分	当第3四半期 〔自平成16年4月1日〕 〔至平成16年12月31日〕		前第3四半期 〔自平成15年4月1日〕 〔至平成15年12月31日〕		前連結会計年度 〔自平成15年4月1日〕 〔至平成16年3月31日〕	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	186,019	100.0	181,827	100.0	240,109	100.0
売上原価	103,174	55.5	99,409	54.7	132,074	55.0
売上総利益	82,844	44.5	82,418	45.3	108,035	45.0
販売費及び一般管理費	60,680	32.6	57,701	31.7	77,309	32.2
営業利益	22,164	11.9	24,717	13.6	30,726	12.8
営業外収益	1,089	0.6	1,304	0.7	1,593	0.7
営業外費用	741	0.4	635	0.3	1,199	0.5
経常利益	22,512	12.1	25,385	14.0	31,120	13.0
特別利益	4,308	2.3	483	0.3	797	0.3
特別損失	3,841	2.1	1,469	0.9	2,211	0.9
税金等調整前 四半期(当期)純利益	22,979	12.3	24,399	13.4	29,706	12.4
法人税等	8,702	4.7	10,062	5.5	12,103	5.0
少数株主利益	1,363	0.7	1,172	0.7	1,363	0.6
四半期(当期)純利益	12,913	6.9	13,164	7.2	16,239	6.8

(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

区分	期	当第3四半期 〔自 平成16年 4月 1日〕 〔至 平成16年12月31日〕	前第3四半期 〔自 平成15年 4月 1日〕 〔至 平成15年12月31日〕	前連結会計年度 〔自 平成15年4月 1日〕 〔至 平成16年3月31日〕
		金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		11,723	24,845	36,915
投資活動によるキャッシュ・フロー		10,144	23,669	25,836
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,128	7,229	7,933
現金及び現金同等物に係る換算差額		66	109	280
現金及び現金同等物の増減()額		2,773	6,161	2,865
現金及び現金同等物の期首残高		44,434	41,568	41,568
現金及び現金同等物の期末残高		47,207	35,406	44,434

四半期財務情報の作成等に係る事項**固定資産の減損に係る会計基準**

固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)が平成16年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び同適用指針を適用しております。これにより、税金等調整前四半期純利益は2,247百万円減少しております。